様式第3号

自己評価報告書（最終報告）

報告者	芸術系コース（音楽） ／長島　真人

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ．学長の定める重点目標

Ⅰ－1．科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され，教員の研究費配分も厳しくなってきており，教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで，科研費申請に向けて，あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1．目標・計画

引き続き、「19世紀アメリカ合衆国のボストンにおける音楽科教育の思想の形成過程に関する研究」というテーマで、研究を継続すると同時に、科研費申請を行う。
①先行研究を吟味しながら、ボストンにおいて展開された唱歌教育の成立の経緯に関する学術研究発表を学会で行う。
②まとめることができた研究成果を論文として投稿する。
③本研究の今日的な意味を検討し、科研費申請を行う。

2．点検・評価

引き続き、「19世紀アメリカ合衆国のボストンにおける音楽科教育の思想の形成過程に関する研究」というテーマで、研究を継続すると同時に、科研費申請の手続きを行い、応募書類を提出した。
①先行研究を吟味しながら、ボストンにおいて展開された唱歌教育の成立の経緯に関する学術研究発表を学会で行った。5月に開催された音楽教育史学会と、10月に開催された日本音楽教育学会で学会発表を行った。
②5月の音楽教育史学会の研究発表でまとめることができた成果を、8月に論文として投稿した。
③本研究の今日的な意味を検討し、科研費申請の研究計画書を再検討し、応募書類を提出したが、不採択であった。さらに、検討を加えていきたい。

Ⅰ－2．大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で，あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか，具体的に示してほしい。

1．目標・計画

以下に示すような、研修会や研究活動に参画し、本大学院の情報を紹介し、勧誘活動を展開する。
①免許更新講習において音楽授業の指導と評価のスキルアップをめざした講義と演習を実施し、ここで、より詳細な研修に発展させてい
くために大学院に進学することを積極的に推奨する。
②10年次経験者研修において発問と指示の技を中核とする言語活動に着目した学習指導に関する講義と演習を実施し、より精密な研究を試みるために大学院に進学することを積極的に推奨する。
③小、中、高等学校の音楽科教育研究に関わる研修活動に参画し、研修をサポートすると同時に、大学院の情報を紹介し、す進学することを積極的に推奨する。

2．点検・評価

以下に示すような、研修会や研究活動に参画し、本大学院の情報を紹介し、勧誘活動を展開した。
①7月に、免許更新講習において音楽授業の指導と評価のスキルアップをめざした講義と演習を実施し、ここで、より詳細な研修に発展させていくために、大学院に進学することを積極的に推奨した。
②10年次経験者研修において、発問と指示の技を中核とする言語活動に着目した学習指導に関する講義と演習を実施し、より精密な研究を試みるために大学院に進学することを積極的に推奨する予定であったが、今年度は参会者が既に本学の大学院修了者であった。次年度も、この10年次経験者研修を計画し、勧誘活動を継続する予定である。
③小、中、高等学校の音楽科教育研究に関わる研修活動に参画し、研修をサポートすると同時に、大学院の情報を紹介し、進学することを積極的に推奨した。今年度は、6月に開催された附属中学校の研究発表会や8月に札幌市と宇和島市で開催された音楽教育の研修会、2月に開催された附属小学校の研究発表会で、大学院に進学することを積極的に推奨した。

Ⅱ．分野別

Ⅱ－1．教育・学生生活支援

1．目標・計画

学校教育に対する今日的な社会の要請と学生・院生たちの個々の要求に注意を払いながら、授業の構想と展開、就職支援、課外指導、生活支援を継続的に推進していく。具体的な計画としては、以下のような観点に留意する。
①平成19年度に開発した音楽科の授業実践力のスタンダードと平成22年度に開発したカリキュラムマップをふまえながら、音楽科の教科論と授業論を扱う講義の見直しを継続する。
②講義だけでなく、演習として、教材分析や指導案作り、模擬授業、ロールプレイングを活用する工夫を継続する。
③演習の中で、具体的な作業課題を工夫し、多様なデータから評価が行えるように工夫する。
④就職支援として、小論文や自己アピール文等の執筆方法を個別に添削指導する。
⑤課外活動の支援として、鳴門教育大学フィルハーモニー管弦楽団の指揮者として、学生たちを指導し、演奏行事等に参加する。
⑥オフィスアワーや e-mail を活用して、学生の相談への対応や個別指導が円滑に行えるようにする。
⑦クラス担当教員として、キャリアファイルノートをガイドラインとして活用しながら、学生たちの修学や大学生活に関する支援・指導を行う。

2．点検・評価

学校教育に対する今日的な社会の要請と学生・院生たちの個々の要求に注意を払いながら、授業の構想と展開、就職支援、課外指導、生活支援を継続的に行った。具体的な計画としては、以下のような観点に留意した。
①平成19年度に開発した音楽科の授業実践力のスタンダードと平成22年度に開発したカリキュラムマップをふまえながら、音楽科の教科論と授業論を扱う講義の見直しを継続した。特に、学生たちの思考活動を活性化させるような文献の読み解きや発問と指示がより一層効果的になるように工夫した。
②講義だけでなく、演習として、教材分析や指導案作り、模擬授業、ロールプレイングを活用する工夫を継続した。教材分析作業では、楽譜を投影し、学生たちに問いかけながら楽曲分析を表示し、指導案作りでは学生たちの多様なアイデアが共有されるような授業場面を工夫し、模擬授業やロールプレイングでは学生たちの演技の中に自分自身も参画しながら、技や意味が共有されるように工夫した。
③演習の中で、具体的な作業課題を工夫し、多様なデータから評価が行えるように工夫した。教員採用試験で出題されている多様な課題を参考にしながら、学生たちが必要としている課題を特定し、作業を通して、情報処理力やコミュニケーション力が育まれるように工夫した。
④就職支援として、小論文や自己アピール文等の執筆方法を個別に添削指導した。今年度も、メールを通して、個別的な添削指導を実施した。必要なときは、面談して、指導を徹底させた。
⑤課外活動の支援として、鳴門教育大学フィルハーモニー管弦楽団の指揮者として、学生たちを指導してきたが、今年度は、特に、行事が計画されず、年度当初に運営に関しての助言を行うだけに留まっている。
⑥オフィスアワーや e-mail を活用して、学生の相談への対応や個別指導が円滑に行えるようにした。今年度も、進路や就職、修学に関する相談に来る学生が若干いた。コースの教員と連携しながら、情報を共有し、相談に訪れた学生の意に沿った面談を展開することができた。
⑦クラス担当教員として、キャリアノートをガイドラインとして活用しながら、学生たちの修学や大学生活に関する支援と指導を行った。担当しているクラスの学生たちが2年生になったので、健康管理や安全な学生生活の維持に関する注意を喚起した。キャリアノートの指導は、できるだけ詳細に記録が残せるように指導した。特に、今年度は、合宿研修で、自己PRの指導を行った。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

音楽科教育学担当として継続してきた教科の思想の歴史的、哲学的な研究と音楽授業の理論的な研究を推進していくと同時に、教師教育の改善をめざした研究を推進していく。具体的な計画としては、以下のような観点に留意する。
①継続研究である「19世紀アメリカにおける学校音楽教育研究」に関して、学会発表や論文執筆を行う。
②継続研究である音楽科の授業理論の構築に関する研究を進め、研修会で講義や演習として活用する。
③教育実践力の向上をめざす学生たちのための評価スタンダードの活用方法を検討する。
④「教職実践演習」の内容とこれに直接的に関連していく「キャリアファイルノート」による学生生活支援のあり方について検討する。

2. 点検・評価

音楽科教育学担当として継続してきた教科の思想の歴史的、哲学的な研究と音楽授業の理論的な研究を推進していくと同時に、教師教育の改善をめざした研究を推進している。具体的な計画としては、以下のような観点に留意した。
①継続研究である「19世紀アメリカにおける学校音楽教育研究」に関して、5月に開催された音楽教育史学会と、10月に開催された日本音楽教育学会で研究発表を行った。また、音楽教育史学会での研究発表の成果は論文として執筆し、8月に当学会に投稿した。しかしながら、査読者の指摘と編集委員会の判断によって、連続投稿を辞退するように促され、論文審査を受けることができなかった。この投稿原稿は、次年度に何らかの方法で、論文に仕上げる予定である。また、この研究を継続していくために、11月にニューヨーク公立図書館の音楽図書室、3月にボストン公共図書館の稀少本室で史料調査を行った。
②継続研究である音楽科の授業理論の構築に関する研究を進め、研修会で講義や演習として活用している。今年度も、免許更新講習や10年次経験者研修、夏期講習会、学内の授業で、音楽の本質的な特性や音楽の学習の論理に基づいた教材研究や授業構想と具体的な指導の在り方について講義と演習を行った。特に、今年度からは、マイクロティーチングを通して、指示と発問のあり方を具体的に検討し、学生たちを指導した。
③教育実践力の向上をめざす学生たちのための評価スタンダードの活用方法を検討した。特に、コア科目の中で、学生たちの自己省察の手がかりとして、評価スタンダードをよりどころとしながら、学修の成果と課題が意識されるような指導の工夫を、今年度も継続して行った。さらに、9月には、北京師範大学で開催された中日教師教育学術交流会に出席し、音楽科の学習指導の特性から導かれる教師の力量の特性に関して研究発表を行った。また、1月にフィンランドのタンペレ大学で調査研究を行い、教師教育の具体的な方法について、意見交換を行った。
④「教職実践演習」の内容とこれに直接的に関連していく「キャリアノート」による学生生活支援のあり方について検討した。次年度から実施される「教職実践演習」の具体的な授業シラバスや指導方法の在り方について、ワーキングチームに参加しながら、検討を行った。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

各種委員会活動やFDの活動、学生支援活動において、任務内容に即した活動を展開する。具体的な計画としては、以下の観点に留意する。
①各種委員会やコース内での運営に参画し、その任務内容を推進する。
②大学の教師教育に関わる研修行事に参画する。
③平成23年度学部入学生のクラス担当教員として、その任務を遂行する。

2. 点検・評価

各種委員会活動やFDの活動、学生支援活動において、以下のような任務内容に即した活動を行った。
①各種委員会やコース内での運営に参画し、その任務内容を推進した。今年度も、学生支援委員と就職支援委員を務め、学生たちの学修や生活に関する相談や就職支援事業に参画した。4月の新入生の合宿研修では、キャリアノートの意義と活用法方について、新入生にガイドした。また、この合宿中に、進路に不安を抱きながら本学に入学してきた学生から相談を受け、今後の可能性を探り合い、解決の糸口を見出すように指導した。さらに、学生たちのための危機管理マニュアルの作成を検討する委員会に参画し、学生たちの危機意識を高める手立てを工夫した。
②大学の教師教育に関わる研修行事として、今年度は、モデルコアカリキュラムの構築に関する共同研究事業に参画した。1月には、3年前に訪問したフィンランドのタンペレ大学を再度訪問し、本学のキャリアノートの内容に関して、意見交換をすると同時に、さらに発展的に展開されているタンペレ大学や大学附属中学校での教師教育の実際を調査した。今年度のFD活動では、芸術系コース（音楽）で行った討論の記録を担当した。
③平成23年度学部入学生のクラス担当教員として、その任務を遂行した。具体的には、キャリアノートによる指導と、個別的な面談、メールによる指導、9月の合宿研修での指導等を通して、健康で安全な学生生活を維持すると同時に、就職活動に向けての意識が少しずつ高まっていくように指導を行った。心身面で若干不安定になった学生が生じたが、個別に学生生活の支援を行い、平穏な学生生活が送れるように指導した。

Ⅱ－4．附属学校・社会との連携，国際交流等

1．目標・計画

音楽科教育学の最新情報をふまえながら、附属学校や公立学校、学会組織の研究・運営活動に参画し、連携を深める。具体的な計画としては、以下のような観点に留意する。
①附属小・中学校の教育研究活動に参画し、事前の研究協議会や研究大会に参加する。
②日本学校音楽教育実践学会や日本音楽教育学会、音楽教育史学会、中国四国教育学会等において、学会の組織作りや研究大会の準備、紀要編集等に協力する。
③学部の教育実践コア科目である「初等中等教育実践基礎」と「初等中等教科教育実践Ⅰ」、「初等中等教科教育実践Ⅱ」、「初等中等教科教育実践Ⅲ」の講義を実施するために、教科内容学担当の教員と附属学校の教諭、公立学校の教諭と連携し、本学の教師教育のためのコア・カリキュラムの具体的な展開方法を工夫する。
④音楽科教育学の立場から、「免許更新講習」と「10年経験者研修」の講義と演習を計画し、実践する。

2．点検・評価

音楽科教育学の最新情報をふまえながら、以下のように、附属学校や公立学校、学会組織の研究・運営活動に参画し、連携を深めた。
①附属小・中学校の教育研究活動に参画し、事前の研究協議会や研究大会に参加した。6月に開催された附属中学校の研究大会や2月に開催された附属小学校の研究大会では、準備の段階から研究活動に参画し、大会当日は助言者をつとめた。このほかに、札幌市と宇和島市で開催された音楽科の研修会に参画し、講演やワークショップで助言を行った。また、鳴門市大津西小学校の校内研修会に参画し、所見を行った。さらに、徳島県の小学校の生徒指導研究部会に今年度も参画し、研修会での助言や、次年度に向けての主題構想の検討会に参画し、助言を行った。
②日本学校音楽教育実践学会や日本音楽教育学会、音楽教育史学会、中国四国教育学会、日本教科教育学会等において、学会の組織作りや研究大会の準備、紀要編集等に協力した。日本学校音楽教育実践学会では、継続的に四国地区の理事を務めてきたが、今年度は、8月に本学を会場として全国大会を開催することになり、大会の実行委員長として、実行委員会を総括し、作業計画の立案、学内外の交渉、大会の運営、残務処理をおこなった。音楽教育史学会では、論文編集委員として活動した。中国四国教育学会と日本教科教育学会では、理事として活動した。
③学部の教育実践コア科目である「初等中等教育実践基礎」と「初等中等教科教育実践Ⅰ」、「初等中等教科教育実践Ⅱ」、「初等中等教科教育実践Ⅲ」の講義を実施するために、教科内容学担当の教員と附属学校の教諭、公立学校の教諭と連携し、本学の教師教育のためのコア・カリキュラムの具体的な展開方法を工夫した。今年度も、音楽科教育担当の教員が1名欠員していたために、コア科目は、すべて担当した。
④音楽科教育学の立場から、「免許更新講習」と「10年経験者研修」の講義と演習を計画し、実施した。

Ⅲ．本学への総合的貢献（特記事項）

今年度も、音楽科教育学担当の教員が1名欠員しているために、多くの授業を担当することになったが、それぞれの授業場面で、適切に対応することができた。また、人事の選考委員を三つ担当し、その任務を適正に果たすことができた。このうちの一つは、音楽科教育学担当の教員選考人事で、選考委員会の主査を務めた。学生生活支援委員として、本学の危機管理マニュアルの草稿を検討する委員を務め、学生たちの防災意識を高める手立てを工夫した。また、健康面と心理面で不調になった学生に対して、コース長やクラス担任、指導教員、保護者と連携しながら、学生の生活支援を具体的に実行した。就職支援委員として、模擬授業や場面指導、集団討論の指導を、授業の内外を通して、実行した。中日教師教育学術研究会の準備委員として、日本国内の参加者のとりまとめを行い、9月に北京師範大学を訪問し、学術交流を予定通りに遂行することに参画した。本学のモデルコアカリキュラムの構築に関する共同研究事業に、委員として参画した。次年度から実施される「教職実践演習」の具体的な授業シラバスや指導方法の在り方について、ワーキングチームに参加しながら、検討を行った。